

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	2191300025		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームさかほぎ 1F		
所在地	岐阜県加茂郡坂祝町酒倉1296-1		
自己評価作成日	令和 2年10月10日	評価結果市町村受理日	令和 3年 4月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191300025-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和 2年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年はコロナの関係で、いつも行っている臨床美術や外出支援、ボランティアさん来訪、地域の方や保育園との交流もすべて中止となりました。なので少しでも入居者様に季節を味わっていただけるようホーム内で出来るレクリエーションを工夫し、行事食を増やしたり、フラワーアレンジメントを多く行いました。

そのほかは自立支援に力を入れ、認知症に伴う周辺症状を少しでも軽減できる様、水分摂取量、栄養摂取、運動をお一人お一人血液検査データや作業療法士の指導のもと行い改善していきましました。主治医とも連携を図り、飲みすぎている薬の見直しを行ってきました。今では半年以上続けていますが、10名以上の方が、眠前薬や下剤、精神薬の減薬に成功しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍により、外出やボランティア訪問等、利用者が外部者と交流できる機会は皆無となっている。家族の面会も、できる限りの支援に努めてきたが、3月以降は面会を自粛していただいている。そんな中、利用者の不安やストレスに配慮し、ホーム内行事の充実を図り、楽しみの支援に努めている。

運営面では、コロナ事情の為か、ホームの人材募集に面接も増え、人材育成にも計画化が必要な状況となっている。永年勤続の職員も多く、事業所運営には安定がある。半面、雇用が進むと、介護経験がある・なしの両極化となり、中間層がいない状態となる。その状況を打破すべく、指導と育成に力を入れ、資格取得を推進し、研修・勉強ができるシフト作りを工夫している。力の集約、考えて動けるスタッフの育成等々、管理者の目指す目標・意識は高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『笑顔は笑顔の橋渡し』という事業所理念に基づいて、そのひとらしく笑顔溢れる明るいホームづくりをスタッフ同士心掛け声をかけ合いながら支援・ケアを行っています。	ホーム理念を掲げ、ビジョンを踏まえ、毎日の唱和で周知している。理念帰結に向かい、自身が何をするかを具体的に確認し、日常支援を実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナだったので、地域との交流はすべて中止しました。	コロナ禍により、地域行事は全て中止となり、ホームの地域交流は職員が清掃活動に参加するのみとなっている。地域で持ち回りの認知症カフェ、同ビル内のデイサービスとの交流等、地域性を重んじた交流を継続して来た。再開が待たれる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナだったので、ホームへ地域の方をお呼びすることはできませんでしたが、地域の公民館をお借りして、オムツの講習をご自宅で介護しているご家族様向けに開催しました。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催していましたが、今年の4月からは資料をお渡しするのみで会議は開催していません。。	運営推進会議開催方法を行政に相談し、行政と法人の指示で、4月からは書面開催に切り替えている。メンバーに対し、事前に意見を募り、運営報告と共に議事録に反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡は密にとっています。事業所連絡会議に参加したり、事業所の運営推進会議にも参加していただいたりと情報共有しながら協力関係を築くように取り組んでいます。	行政との連携した取り組みは、持ち回りの認知症カフェ開催、事業所連絡会参加、見守りボランティア養成講座参加等々、事例は多い。現在はすべてを休止しているため、密に情報共有、意見交換の機会を作り、メール・電話等で連携している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベット柵・居室の施錠・身体拘束等の指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を理解し、ケアに取り組み、身体拘束廃止委員会を発足させ、虐待防止のチェックシートを使用し常に活動しています。	身体拘束廃止委員会を設置し、管理者を含むメンバーで、チェックシートを活用して話し合っている。内容は職員会議で周知している。法人全体の取組みとして、身体拘束に関わるチェックシートやストレスチェックシートがあり、自身の振り返りとしての活用がある。職員は高い意識で身体拘束廃止に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回高齢者虐待・身体拘束についての研修を行い、事業所内での虐待や身体拘束がないよう注意を払い、防止に努めています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修にて日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ちました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約や退居時、また契約書の改定の際は、利用者や家族に不安や疑問点を尋ねながら説明を行い、理解・納得が図れるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートの結果を参考に、ご家族様のお知りになりたいことを、お便りや新聞でわかりやすくお知らせしています。	コロナ禍以前は、3ヶ月毎の介護計画更新時の説明の機会に直接意見を聞き取っていた。3月からは面会自粛となったため、文書と電話での連携を図っている。家族の安心に配慮し、様々に寄せられる希望や意見に対し、理解を得るように、真摯な対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議・ユニット会議にて、スタッフの意見・提案を聴く機会を設けています。その他にも年に1・2回ですが、食事会を行っています。	職員関係は良好であり、管理者・リーダーと職員の距離は近く、忌憚なく話し合える関係性が見て取れる。利用者本位の意識統一下で、「利用者のため」が話し合えるホームである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を取り入れ、個人個人の能力に応じて給与が変わるようにし、個人の仕事に対するやりがい、向上心を持って働けるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での勉強会や資格取得のための勉強会を行っています。新入社員には仕事内容がしっかり理解できるまで、ベテランスタッフがついて指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年の4月以前は年3回、隣のデイサービスのご利用者様と一緒にドッグセラピーを行っていました。地域のお祭りも福祉フェスティバルも今年は中止で参加できていません。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際はアセスメントを行い、本人が困っていることや不安なこと・要望等を傾聴し、本人が安心して生活できるような環境・関係づくりに努めています。お試しでの昼食会を開催し入居前にホームの雰囲気を味わってもらっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際はアセスメントを行い、家族が困っていることや不安なこと・要望等を傾聴し、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がまず必要としている支援を見極め、医療・サービス等対応できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、日常生活の中で利用者ができることを見つけ情報を共有し、声かけしながら行っただけよう努めています。また一緒に寄り添いながら行うことで、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に考え、毎月身元引受人に限らず、他の家族にもお手紙・お便りを送っています。手紙は手書きにこだわり、お便りは表情や様子がよりわかりやすく伝わるようにしたりご家族様からの意見も反映させるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りも、花火大会も、福祉フェスティバルもすべて中止で参加できていません。家族様以外の面会もお断りしています。	コロナ禍による面会や外出自粛で、今年度は外部と関わる支援が出来なくなっている。利用者の不安やストレスに配慮し、畑作りを行ったり(経験者多数)、帰宅願望への配慮で、電話の取次ぎを行ったりと、利用者の馴染みに、出来る限り対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に家事を行う事でコミュニケーションが取れるよう、スタッフが間に入り支援するように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、病院や施設に会いに行くように努めています。これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて今後も相談や支援をしていきたいと考えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での何気ない会話やアセスメント表を活用しながら、利用者の思いや希望・意向の把握に努めています。	毎月の職員会議で利用者情報を共有し、意向の把握と共に、具体的な支援内容と方法を話し合っている。意向実現は基本であり、継続して取り組める事項は、介護計画の支援内容に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	愛の家独自のフェイスシートを利用して以前の生活を把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、朝・夕に申し送りを行い、ホーム全体で情報共有できるようにしています。各フロアにおいてはユニット会議や送りノートの利用により、フロアの情報共有を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに見直しの際、フロアスタッフがモニタリングを行い、家族・スタッフがサービス担当者会議を開き、現状に即した介護計画を作成しています。	基本的に3ヶ月毎のモニタリングと介護計画の更新を実施している。現在サービス担当者会議は中止にしているため、介護計画立案前に家族意見を書面や電話で聞き取っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日報・介護記録に記入し、スタッフ間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況・ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスに取り組んでいます。タクティールケアの実践もケアに取り入れています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症カフェは開催できましたが、コロナの関係で今年は地域交流が出来ませんでした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回定期往診以外にも、体調不良時に往診に来ていただき、適切な医療が受けれる体制を築いています。	ホーム協力医の、本人の状態に合わせた定期訪問診療を支援している。24時間オンコールでの緊急対応もある。医療連携の訪問看護師が週に1回訪問し、利用者の健康管理を行い、医師と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専任の看護スタッフを配置し、スタッフが日常生活の関わりの中でとらえた情報や気づきを看護スタッフに報告・相談をし、情報を共有できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、安心して治療できるようにまた、できるだけ早期に退院していただけるように病院関係者の方々と情報を共有したり、相談したりしながら関係づくりを日々行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階で家族と話し合い、事業所でできることを十分説明しながら、主治医・訪問看護師と密に連絡を取り合って看取りケアに取り組んでいます。今年も2名の方の看取りを行いました。	ホーム協力医の協力もあり、終末期支援は可能な環境にある。終末期、看取りまでの希望は多く、本人の状態変化の都度、必要時には医師も交えて支援方針を話し合っている。本人・家族の希望に沿った、職員の手厚い支援を実現すべく、職員教育にも余念がない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは定期的に救命救急の講習を受け実践力を身につけています。またホーム会議でも急変時の対応などを看護スタッフ指導のもと勉強することで、急変・事故発生時に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフは年2回(夜間・日中)の消防・避難訓練を行い、利用者が安全に避難できるように方法等身につけています。	年2回の避難訓練を実施している。市の福祉避難所指定を受け、飲食料や必要備品についても、ホーム利用者分以上の物品を備蓄している。職員の防災に対する意識は高く、利用者と共に避難方法を習得し、有事に備えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしています。不適切ケアチェック表を常に気にして仕事をしています。	法人の運用する「不適切ケアチェック表」は、身体拘束や虐待ばかりではなく、接遇に関しても活用がある。利用者本位の支援には、本人の人格の尊重が不可欠であり、意識を持って取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、できる限り利用者と関わりふれあう機会を多く持ち、一人ひとりの思いや希望を受け止め自己決定ができるように働きかけ支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、一日をどう過ごしたいか希望を伺いながら、その人らしく生活していただけるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問美容院に来ていただき、ご本人が希望される髪型、髪色にいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で取れた野菜を提供したり、一緒に収穫したりしています。また外食支援も取り入れ、食事が楽しみなよう厨房スタッフと相談しながら行っています。食事作り・片付け等も一緒に行っています	ホームの畑で収穫した野菜や、近隣からの到来物の野菜等、季節の野菜を調理して、季節感を楽しんでいる。調理スタッフがユニット毎に調理を行い、利用者の嗜好にも配慮して食事を提供している。外食の代替りのデリバリー等で変化をつけ、楽しみに配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量や食事形態を工夫している。ミキサー食の方は見た目がどうしても悪くなりがちなので厨房スタッフが盛り付ける際、見た目や彩りにも気を配りながら、工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを実施しています。また就寝前には入れ歯をお預かりし洗浄を行っています。アスナロ歯科に相談しながら、ケアしております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくオムツにせず、お一人おひとりの排泄パターン・力・習慣を活かし理解しながらできる限りトイレでの排泄ができるように、声かけ・トイレ誘導し自立に向けた支援を行っています。	トイレでの排泄を基本に支援している。利用者一人ひとりに合った支援方法を話し合い、自立支援を実践している。状態維持・向上に努め、「できること」継続を推進している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日1500cc以上水分を摂取していただけるよう声かけ・支援させていただいたり、毎朝牛乳・きなこ牛乳等提供し、毎日体操も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴は実施しています。一人ひとりの希望・タイミングにできる限り合わせた入浴ができるよう取り組んでいます。また季節のお風呂として、ゆず風呂も行っています。	毎日の入浴を提供し、清潔保持の観点からも、週3回以上の入浴ができるように、入浴管理を行っている。現在は特段の拒否もなく、スムーズに入浴支援を行えている。入浴時を個別のコミュニケーションの機会として活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、居室にて休んでいただいたり、テレビを観て過ごしていただいたり、その人らしく普通の生活を送っていただけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用・用法や用量についてスタッフ全員が理解し服薬の支援に努めています。また変薬があった場合などはスタッフ間でしっかり情報共有し症状の変化などの確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと・気分転換等の支援をし、張り合いや喜びのある普通の日常生活がすごせるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人おひとりの希望に沿って、外出できる機会を多く設けるようにしています。また喫茶店、買い物レク、誕生日外食など、外出する機会を月に1回はできるように支援しています。	コロナ禍により、行事外出や外食、喫茶外出等を自粛している。近隣の散歩、ドライブ等は感染症予防対策を講じて継続している。外出できない分、中庭のお茶会等、戸外でのレクリエーションや、室内でも行えるレクリエーションを工夫し、利用者の気晴らしになるように努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今年の4月までは近所のドラッグストアや、スーパーに買い物に出かける買い物支援を行っていました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、電話をかけていただいたり、お手紙を書かれるかたもみえます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節での行事の写真を掲示したり、利用者様と季節の貼り絵を制作して飾っています。 季節の草花を飾るようにしています。	ホーム内の清潔保持は見事である。ほんわかとしたアットホームな雰囲気が漂い、利用者の動線に配慮した、広々とした空間の確保がある。季節の飾り付けを工夫し、室内に居ても季節感が感じられるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、ソファにて気の合う利用者同士でお茶を飲みながら過ごしたり、歌を唄ったり、本を読んだり等思い思いに過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものや馴染みの物・好みの物等設置し、ご利用者様や家族と相談し工夫しながら居心地よく過ごしていただけるような環境づくりを行っています。誕生日の色紙や写真を飾っています。	使い慣れた物品を持ち込み、思い思いに配置している。本人の居心地の良さを考え、家族とも話し合いながら居室環境を整備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの「できること」「わかること」などを理解し活かしながら、安心・安全にできるだけ自立した生活を送っていただけるように工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	2191300025		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームさかほぎ 2F		
所在地	岐阜県加茂郡坂祝町酒倉1296-1		
自己評価作成日	令和 2年10月10日	評価結果市町村受理日	令和 3年 4月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191300025-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和 2年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年はコロナの関係で、いつも行っている臨床美術や外出支援、ボランティアさん来訪、地域の方や保育園との交流もすべて中止となりました。なので少しでも入居者様に季節を味わっていただけるようホーム内で出来るレクリエーションを工夫し、行事食を増やしたり、フラワーアレンジメントを多く行いました。

そのほかは自立支援に力を入れ、認知症に伴う周辺症状を少しでも軽減できる様、水分摂取量、栄養摂取、運動をお一人お一人血液検査データや作業療法士の指導のもと行い改善していきましました。主治医とも連携を図り、飲みすぎている薬の見直しを行ってきました。今では半年以上続けていますが、10名以上の方が、眠前薬や下剤、精神薬の減薬に成功しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『笑顔は笑顔の橋渡し』という事業所理念に基づいて、そのひとらしく笑顔溢れる明るいホームづくりをスタッフ同士心掛け声をかけ合いながら支援・ケアを行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナだったので、地域との交流はすべて中止しました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナだったので、ホームへ地域の方をお呼びすることはできませんでしたが、地域の公民館をお借りして、オムツの講習をご自宅で介護しているご家族様向けに開催しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催していましたが、今年の4月からは資料をお渡しするのみで会議は開催していません。。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡は密にとっています。事業所連絡会議に参加したり、事業所の運営推進会議にも参加していただいたりと情報共有しながら協力関係を築くように取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベット柵・居室の施錠・身体拘束等の指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を理解し、ケアに取り組み、身体拘束廃止委員会を発足させ、虐待防止のチェックシートを使用し常に活動しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回高齢者虐待・身体拘束についての研修を行い、事業所内での虐待や身体拘束がないよう注意を払い、防止に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修にて日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ちました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約や退居時、また契約書の改定の際は、利用者や家族に不安や疑問点を尋ねながら説明を行い、理解・納得が図れるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートの結果を参考に、ご家族様のお知りになりたいことを、お便りや新聞でわかりやすくお知らせしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議・ユニット会議にて、スタッフの意見・提案を聴く機会を設けています。その他にも年に1・2回ですが、食事会を行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を取り入れ、個人個人の能力に応じて給与が変わるようにし、個人の仕事に対するやりがい、向上心を持って働けるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での勉強会や資格取得のための勉強会を行っています。新入社員には仕事内容がしっかり理解できるまで、ベテランスタッフがついて指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年の4月以前は年3回、隣のデイサービスのご利用者様と一緒にドッグセラピーを行っていました。地域のお祭りも福祉フェスティバルも今年は中止で参加できていません。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際はアセスメントを行い、本人が困っていることや不安なこと・要望等を傾聴し、本人が安心して生活できるような環境・関係づくりに努めています。お試しでの昼食会を開催し入居前にホームの雰囲気を味わってもらっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際はアセスメントを行い、家族が困っていることや不安なこと・要望等を傾聴し、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がまず必要としている支援を見極め、医療・サービス等対応できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、日常生活の中で利用者ができることを見つけ情報を共有し、声かけしながら行っただけよう努めています。また一緒に寄り添いながら行うことで、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に考え、毎月身元引受人に限らず、他の家族にもお手紙・お便りを送っています。手紙は手書きにこだわり、お便りは表情や様子がよりわかりやすく伝わるようにしたりご家族様からの意見も反映させるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りも、花火大会も、福祉フェスティバルもすべて中止で参加できていません。家族様以外の面会もお断りしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に家事を行う事でコミュニケーションが取れるよう、スタッフが間に入り支援するように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、病院や施設に会いに行くように努めています。これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて今後も相談や支援をしていきたいと考えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での何気ない会話やアセスメント表を活用しながら、利用者の思いや希望・意向の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	愛の家独自のフェイスシートを利用して以前の生活を把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、朝・夕に申し送りを行い、ホーム全体で情報共有できるようにしています。各フロアにおいてはユニット会議や送りノートの利用により、フロアの情報共有を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに見直しの際、フロアスタッフがモニタリングを行い、家族・スタッフがサービス担当者会議を開き、現状に即した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日報・介護記録に記入し、スタッフ間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況・ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスに取り組んでいます。タクティカルケアの実践もケアに取り入れています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症カフェは開催できましたが、コロナの関係で今年は地域交流が出来ませんでした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回定期往診以外にも、体調不良時に往診に来ていただき、適切な医療が受けれる体制を築いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専任の看護スタッフを配置し、スタッフが日常生活の関わりの中でとらえた情報や気づきを看護スタッフに報告・相談をし、情報を共有できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、安心して治療できるようにまた、できるだけ早期に退院していただけるように病院関係者の方々と情報を共有したり、相談したりしながら関係づくりを日々行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階で家族と話し合い、事業所でできることを十分説明しながら、主治医・訪問看護師と密に連絡を取り合って看取りケアに取り組んでいます。今年も2名の方の看取りを行いました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは定期的に救命救急の講習を受け実践力を身につけています。またホーム会議でも急変時の対応などを看護スタッフ指導のもと勉強することで、急変・事故発生時に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフは年2回(夜間・日中)の消防・避難訓練を行い、利用者が安全に避難できるように方法等身につけています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしています。不適切ケアチェック表を常に気にして仕事をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、できる限り利用者と関わりふれあう機会を多く持ち、一人ひとりの思いや希望を受け止め自己決定ができるように働きかけ支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、一日をどう過ごしたいか希望を伺いながら、その人らしく生活していただけるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問美容院に来ていただき、ご本人が希望される髪型、髪色にいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で取れた野菜を提供したり、一緒に収穫したりしています。また外食支援も取り入れ、食事が楽しみになるよう厨房スタッフと相談しながら行っています。食事作り・片付け等も一緒に行っています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量や食事形態を工夫している。ミキサー食の方は見た目がどうしても悪くなりがちなので厨房スタッフが盛り付ける際、見た目や彩りにも気を配りながら、工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを実施しています。また就寝前には入れ歯をお預かりし洗浄を行っています。アスナロ歯科に相談しながら、ケアしております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくオムツにせず、お一人おひとりの排泄パターン・力・習慣を活かし理解しながらできる限りトイレでの排泄ができるように、声かけ・トイレ誘導し自立に向けた支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日1500cc以上水分を摂取していただけるよう声かけ・支援させていただいたり、毎朝牛乳・きなこ牛乳等提供し、毎日体操も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴は実施しています。一人ひとりの希望・タイミングにできる限り合わせた入浴ができるよう取り組んでいます。また季節のお風呂として、ゆず風呂も行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、居室にて休んでいただいたり、テレビを観て過ごしていただいたり、その人らしく普通の生活を送っていただけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用・用法や用量についてスタッフ全員が理解し服薬の支援に努めています。また変薬があった場合などはスタッフ間でしっかり情報共有し症状の変化などの確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと・気分転換等の支援をし、張り合いや喜びのある普通の日常生活がすごせるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人おひとりの希望に沿って、外出できる機会を多く設けるようにしています。また喫茶店、買い物レク、誕生日外食など、外出する機会を月に1回はできるように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今年の4月までは近所のドラッグストアや、スーパーに買い物に出かける買い物支援を行っていました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、電話をかけていただいたり、お手紙を書かれるかたもみえます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節での行事の写真を掲示したり、利用者様と季節の貼り絵を制作して飾っています。 季節の草花を飾るようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、ソファにて気の合う利用者同士でお茶を飲みながら過ごしたり、歌を唄ったり、本を読んだり等思い思い過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものや馴染みの物・好みの物等設置し、ご利用者様や家族と相談し工夫しながら居心地よく過ごしていただけるような環境づくりを行っています。誕生日の色紙や写真を飾っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの「できること」「わかること」などを理解し活かしながら、安心・安全にできるだけ自立した生活を送っていただけるように工夫しています。		